

わたしの好きな昔話（7）

『竹取物語』（ちりめん本）



森井 沙織里

今回私が取り上げるちりめん本は『竹取物語』です。この本は、1889年にエドワード・ローゼイ・ミラーによって翻訳されました。ミラーは日本人に馴染みのある『竹取物語』を外国人にも解り易く、丁寧に解説しています。『竹取物語』は日本最古の物語として有名です。

竹取の翁が竹の中から小さな少女を授かり、彼女に「かぐや姫」と名付けた。かぐや姫は美しく成長し、かぐや姫は5人の貴族から求婚されるが、無理難題を出して断ってしまう。帝のお召しにも従わず、月の世界へ帰ってしまった。別れの際に、かぐや姫は帝に不死の薬を贈ったが、帝はその薬を焼いてしまう。それから薬を焼いたその山を不死山と呼ばれるようになった。

皆さんが知っている『竹取物語』はこのようならすじですよ。しかし、私の地元、富士市にはこれとは違った内容の『竹取物語』が伝わっているのです。

美しく成長したかぐや姫に1人の国司が求婚します。最初は断るが、国司が何度も求婚するのでかぐや姫はその国司と共に暮らすことになりました。数年がたち、かぐや姫は自分が富士山の天女であり、富士山に帰らなくてはならないと

国司に伝えました。しかしその願いは聞き入れてもらえず、ある日、かぐや姫は1つの箱を残して去ってしまいました。かぐや姫との別れに悲しんだ国司は、後を追いました。富士の山頂には大きな池があり、さらに奥には美しい宮殿がありました。国司がかぐや姫を呼ぶと、姿を現しましたが、もはや人の姿ではなく、天女の姿に変わっていました。かぐや姫の容姿が今までとは変わってしまっていて、国司は悲しみのあまり、かぐや姫が残した箱を抱えて山頂の池に身を投げてしまいました。

どうでしたか？すでに知っている内容とだいぶ違っていませんか。5人から求婚されなければ、無理難題も出さない。さらには月の人でもないのです。おもしろいですよね。この話以外にも違う内容の『竹取物語』が伝わっているのです。少し気になりましたか？

自分がすでに知っている内容を改めて読んで、挿絵を見るのもいいけれど、こういった内容の違う話を探してみるのも楽しいかもしれませんね。

もりい さおり（スペイン語学科4年次生）

